

No.104

# さいばい ニュース

公益財団法人  
**神奈川県栽培漁業協会**  
 発行所 〒238-0237  
 神奈川県三浦市三崎町  
 城ヶ島養老子  
 ☎046(882)6980  
 FAX046(881)2233

## 平成29年度 事業計画

# 種苗生産・放流、供給事業に全力

## 他県と連携し新たに 広域ヒラメ種苗放流事業も展開

当協会は昭和六十一年に、栽培漁業に関する事業で水産資源の維持増大を図り、漁業振興と神奈川県民に新鮮な魚介類を供給することに寄与しようと設立され、今年で三十一年目を迎えました。そこで今年度は、マダイ、アワビ、クロダイ、マコガレイの種苗生産を行い、東京湾や相模湾に放流します。また、漁業協同組合をはじめとする

水産団体への種苗供給を行います。さらに、県下の漁業者などの要望の強いヒラメなどの資源維持増大を図るため種苗を確保して放流します。また今年度は、これらの継続事業に加え新たに公益社団法人全国豊かな海づくり推進協会の支援を受け、他県と連携したヒラメ種苗の広域放流事業を展開することにして



資源の維持・増大のために—ヒラメ種苗放流

「栽培ニュース」(二回/年二回)を作成、

事業内容

(一) 種苗放流事業  
 ◎マダイ種苗放流事業  
 東京湾域、三浦半島西岸域、西湘域各十萬尾  
 ◎ヒラメ種苗放流事業  
 東京湾域、三浦半島西岸域、西湘域各二萬尾

(二) 普及啓発事業  
 ①PR推進事業  
 「栽培ニュース」(二回/年二回)を作成、

県内の水産団体、教育及び公共機関などに配布します。

②イベント推進事業  
 各地のイベントなどに参加し、県民に対して水産資源の保護、海洋環境の保全の大切さを訴え、栽培漁業の普及啓発を行います。

(三) 調査事業  
 マダイ遊漁標本船調査  
 県内マダイ遊漁船の中から川崎市から湯河原町までのマダイ遊漁船に標本船調査を実施します(標本船十二隻)

(四) 種苗供給事業  
 ①生産供給  
 アワビ、サザエ、トコブシ、マダイ、クロダイ、マコガレイ種苗を生産し漁業協同組合をはじめとする水産団体へ供給します。

また、ヒラメ種苗の育成に取りくみます。さらに、トコブシ大型種苗の配布も併せて行います。

②斡旋供給  
 ヒラメ、カサゴ、メバル、トラフグなどの種苗を入手し漁業協同組合をはじめとする水産団体等へ供給します。

### 平成29年度 種苗生産・供給

事業名	種苗名(サイズ)	29年度(計画)	28年度(実績)
生産供給	アワビ(5mm)	30,000個	30,000個
	”(25mm)	220,000個	214,000個
	”(30mm)	40,000個	35,530個
	サザエ(20mm)	300,000個	165,400個
	トコブシ(15mm)	50,000個	41,500個
	*トコブシ(大型)	20,000個	14,000個
	マダイ(60mm)	350,000尾	354,350尾
	クロダイ(60mm)	70,000尾	97,000尾
	マコガレイ(20mm)	37,000尾	0尾
	マコガレイ(30mm)	10,000尾	28,000尾
斡旋供給	ヒラメ(60mm)	220,000尾	216,700尾
	*ヒラメ(大型)	0尾	180尾
	メバル(60mm)	30,000尾	38,500尾
	カサゴ(60mm)	180,000尾	179,500尾
	トラフグ(50mm)	15,000尾	12,500尾
	カワハギ(50mm)	11,000尾	22,000尾

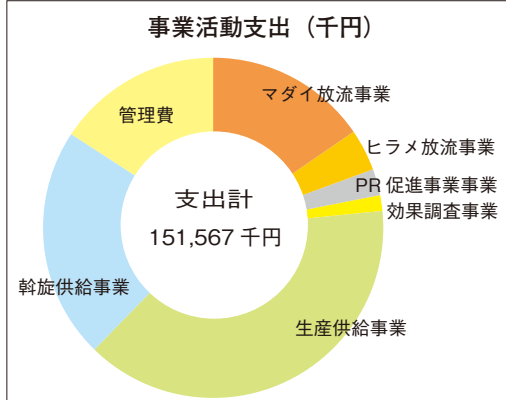
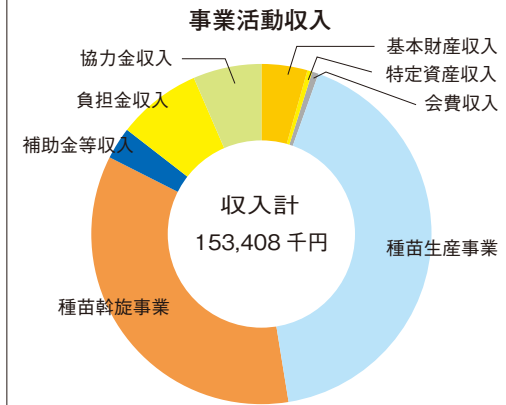
\*養殖用種苗

### 平成29年度 予算

収入	単位(千円)
基本財産運用	8,618
特定資産運用	563
会費	800
種苗生産事業	67,905
種苗斡旋事業	53,200
補助金等	4,764
負担金	11,758
協力金	9,820
マダイ協力金・募金	500
雑収入	250
事業活動収入計	153,408

支出	単位(千円)
マダイ放流事業	25,230
ヒラメ放流事業	6,381
PR促進事業	3,571
効果調査事業	2,088
生産供給事業	58,918
斡旋供給事業	33,319
管理費	21,997
事業活動支出費	151,567



### 平成29年度 予算

二十九年度の事業活動の収入の合計は一億五千三百四十万円余りです。種苗生産・斡旋事業による収入が主なものです。

支出合計は、一億五千万円余りで種苗生産・斡旋供給事業費とマダイ種苗放流事業費の支出が主なもの。

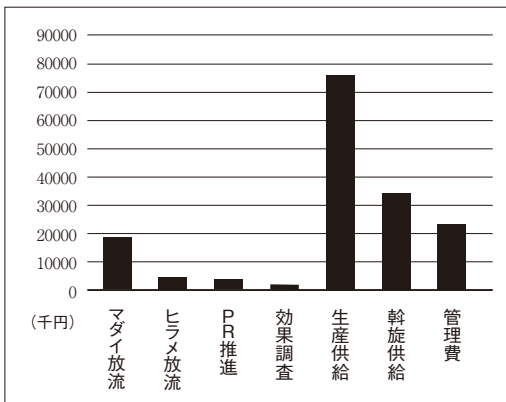
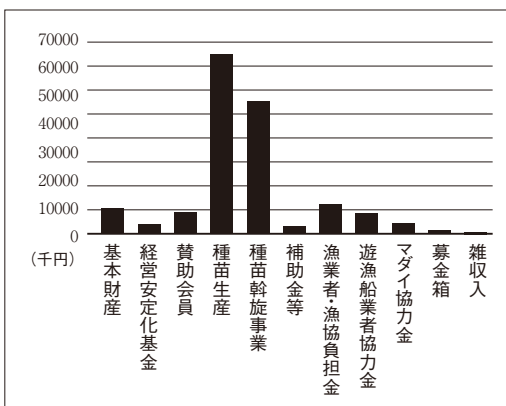
### 潮騒

「水産日本の復活」に向けて取り組む国の重要施策としてスタートしたのが「浜の活力再生プラン」(浜プラン)です。それぞれの地域に合わせ、将来、地域漁業があるべき姿や課題を漁業者が主体となつて考え、漁業所得の向上を通じた漁村地域の活性化を目指し、具体的な取組を实行するための総合的な計画です。この事業は平成二十五年度から始まり、五年計画で、五年後に一〇%以上の所得の向上を数値目標としていきます。神奈川県では十二の浜プランが策定され、国の承認を受けて平成二十六年から「漁業収入向上」及び「漁業コスト削減」の取組が行われています。▼地区で見ると三浦市は上宮田・城ヶ島・諸磯・初声、横須賀市は長井町・横須賀市大楠、大磯町、小田原市、湯河原町福浦、平塚市、真鶴町岩の沿岸に加え内水面の相模川・中津川です。▼資源管理、水産物流通・販路拡大、荷捌き施設の整備などによる漁業収入向上を目指す取り組みが目につきます。▼また、漁業コストの削減では燃料使用料の削減が多く、漁協合併、資材コスト・労働時間削減、太陽光・波力発電の活用などの取り組みを上げているケースもあります。

平成28年度

# 決算

平成二十八年度の事業活動収入合計は、一億五千三百三十五万六千七百



十八円で、前年度比三百七十七万九千七百八十八円減収です。

事業活動支出の主なものは事業費支出で一億四千七百九十九万六千二百六十一円でした。その結果、収支差額は九百二十四万八千三百七十七円でした。

今年も当協会は、相模湾水産振興事業団の種苗放流事業用にマダイ、アワビ、ヒラメ、カサゴ、マコガレイ種苗を供給します。すでに、マコガレイ種苗は藤沢市及び小田原市漁協地先の海に放流しました。

## 相模湾を豊かな海にするために 今年も事業団に種苗供給

葉山町はアワビ、マダヒラメ、マダイ、小田原市はアワビ、ヒラメ、カサゴ、マコガレイ種苗を供給します。すでに、マコガレイ種苗は藤沢市及び小田原市漁協地先の海に放流しました。

## 房竹丸、6次産業化認定取得

### クモダコに付加価値を付け商品開発

横須賀市長井町漁協所属の「房竹丸」の宮川聡船主は、漁獲した低価格のクモダコに付加価値を付けた「たこ飯の素」を開発・商品化しました。この地域資源を活用した新事業の創出が認められ、山本有二農林水産大臣から認定証が授与されました。



認定証を受ける宮川さん(中央)



タコ新商品

五月十八日、長井漁港の房竹丸直売所を訪れた農水省関東農政局神奈川支局の吉永宏喜支局長が認定書を届けましたが、「たこ飯の素」の旨詰を共同開発した神奈川県立海洋科学高校の榊義義校長などが立ち会いました。長井町地先の海で獲れるマダコは豊富な餌を食べており、旨いタコとして知られていますが、小さなタコは高校生の新商品開発授業とのコラボレーションにより、学校と漁業者との「協働・連携」商品として誕生しました。宮川さんは「地元の名産品に育て地域の水産業を盛り上げたい」と話しています。

市場価格が極端に低いのが悩みでした。

宮川さんは、「小型でも味は同じ」という点に目をつけ、手を加えることで収入の向上を目指すことにしました。「刺身だけでなく洋風の加工品をつくってみませんか」などのアドバイスを受けたオリブオイルを使った地ダコの「アヒージョ」、地ダコとレーズンの「マリネ」の開発にこぎ着けました。

## 相模湾シンポジウム

十月二十日

### 水産海洋地域研究集

九州大学名誉教授の柳哲雄先生が「開放型の相模湾における里海の創生」についてと題して基調講演を行います。引き続き相模湾水産振興事業団が取り組んできた里海に関する事業についてをテーマに話題が提供されます。

## 五千尾のヒラメ種苗放流

### 千尾は子どもたちが荒崎海岸に

日本釣振興会神奈川県支部は六月十一日、横須賀市長井町地先の海に合計五千尾のヒラメ種苗を放流しました。当協会が愛知県から購入し供給した八十九ミリの大きさに育った元気な種苗です。



ヒラメの稚魚を放流する子どもたち

この後、活魚運搬車に積み込まれたヒラメ種苗は、荒崎海岸に運ばれました。そして、長井地域の振興を目標として活動している「地域の未来を考える会」が行った「荒崎海岸クリーンフェスタ2017」に参加

## 日本釣振興会神奈川県支部

していた子どもたちが、海岸の清掃を行った後、千尾のヒラメの稚魚を放流しました。

放流に先立って当協会の今井利為専務は、「今年三月中旬に卵をとり育てていたヒラメの稚魚です。今日放流する稚魚は約九センチに育っており、一年目で三十七センチほどに大きくなります。成長が早く、刺身などで食べるとおいしい魚です」と説明しました。

この日は、荒崎にある中央水産研究所横須賀庁舎が一般公開され、調査研究内容を一般の人たちに紹介しました。また、ヒトデやナマコに触ることができると好評で、子どもたちがカニ釣りをするなどして歓声をあげていました。

## アカモク商品化への取組始まる

### 横浜市漁協柴支所



アカモク製品づくり

東京湾の横浜市漁協柴支所でアカモクの商品化のための取組が始まりました。三月にはアナゴ筒、小型底引網漁業を営む若手漁業者を対象とした「アカモク研修会」が二回開催されました。同支所地先の海域でアカモクの収穫実習を行った後、製品の作り方やおいしい食べ方、増殖方法について説明を受けました。二回目の研修会では茹でて刻む加工実習を行いました。四月下旬にはアカモクの増殖試験に取り組みました。卵を持つ雌株と精子を持つ雄株を採取し、アカモクが生えていない海域に移植しました。参加した漁業者たちは、今後、「小柴の新商品」としてアカモクを定着させたいと張り切っています。

神奈川県水産課

# 29年度主要施策・当初予算説明会

資源管理型漁業推進事業の確立を目指す



多数が参加した説明会

神奈川県水産課は、平成二十九年度主要施策および当初予算説明会を開催しました。主要施策の方針は、県下では漁業生産量の低迷、消費者の魚離れ、漁業就業者の減少と漁協組織の脆弱化など多くの課題を抱えているとし、今年度は、漁協再編による経営改善・強化に取り組み、漁協が収益の柱として行う水産資源の増大のための種苗放流などを支援することとしています。また、放流した種苗の一部を親として育て、次の資源につなげる「資源管理型栽培漁業推進事業」の確立を目指しています。

さらに、県産魚介類の流通・仕入の実態調査に着手し、水産資源の確保と漁業経営の安定化

## 杉浦氏が水技センター所長 水産課長には滝口氏が就任

神奈川県は四月一日付で人事異動を行いました。主な異動内容を紹介しますと、神奈川県水産技術センター所長には杉浦暁裕氏、水産課長には滝口直之氏、水産振興担当課長には山本章太郎氏、神奈川県水産技術センター相模湾試験場長には一

を目標とするという「県産魚介類販売促進事業」にも新たに組み込むことを、今年度施策の方針に掲げています。

事業の主なものは、漁協合併促進のための経営の改善・強化を図る事業として「合併漁協経営基盤強化促進事業費補助」

に取り組み、漁協が収益の柱として行う基幹事業や種苗放流事業を支援します。さらに、漁協が行う種苗放流の拡充を促進するため「漁場育成事業」も展開します。

磯焼け対策・藻場緊急再生支援のためのウニ類の駆除効果調査やアイゴの行動追跡調査を行う「沿岸水産資源再生技術開発事業」に取り組みます。この事業の中では、トラフグの種苗生産・放

流技術開発やカサゴの親魚養成試験などを行います。また、二枚貝類の増殖試験も行います。

ナマコの種苗生産試験、アワビ類の資源回復技術の開発、東京湾におけるカレイ類の生息場所などの解明などを行う一般受託研究にも取り組むこととなります。

### 栽培施設整備

なお、放流する稚魚を安定的に生産するとともに、県民ニーズの高い新たな魚種の稚魚を生産できるようにするため、今年度の新規事業として「栽培漁業施設の再整備」に係る概略設計も行

神奈川県下では今年四月一日、相模湾中央の大磯町漁協と二宮町漁協が合併し、「大磯二宮漁協」が誕生しました。さらに

同月二十日には、みうら漁協に諸磯漁協が合併・加入し、「みうら漁協」となりました。いずれも組合員の減少対策とコンプライアンスのレベルを高めるための合併です。

また、小田原市以西の小田原市、真鶴町・岩湯河原町・福浦とオゾザバーとして参加した真鶴町の四漁協は、「県西

地域漁協合併推進協議会」を設立、作業部会を設置し、早期に合併することを目標に協議を開始しました。このように神奈川県ではここに来て、漁協合併の動きが活発になって

**4月1日 大磯二宮漁協誕生**  
**4月20日 三浦・諸磯漁協合併**  
 小田原以西4漁協が協議開始

県西協議会は作業部会を設置し、五月に合同会議を開き、合併した場合の漁場の行使や事業内容、役員、出資金の調整な

神奈川県は、平成二十五年事業で、新規に「水産業経営改善強化促進事業」を立ち上げました。県民に水産物を安定的に供給するには水産資源を豊かにするとともに、漁協の経営を強化するため

の合併が重要である、との考えからです。そこで同事業で、漁場育成事業費補助と合併漁協経営基盤強化促進事業費補助を実施することになりました。

これを受け神奈川県漁連は、漁協合併について、県内の漁協から意見を聞き、漁協合併の早期実現を

## マダイ種苗放流 ビデオ放映



放映されるビデオ

今年一月二十日に、横浜のみなどみらにあるパシフィック横浜で「ジャパンフィッシングショー二〇一七」が開催されました。

日本を代表する釣り具の製造会社などの最新の釣り具の展示が行われました。その会場で、日本釣用品工業会が当協会と契約して行っている東京湾でのマダイ種苗放流のビデオ映像が放映されていま

した。

日本釣用品工業会は、二〇一三年度から毎年、東京湾に二十万尾のマダイ種苗を当協会から購入し、放流しています。二〇一三年度から二〇一七年の五年間で、百万尾のマダイを放流することになっています。この放流は今年度で終了予定であり、今後、東京湾でのマダイ種苗放流数をいかに確保していくか課題となっています。

## さいばい漁業つて何 (22)

公益財団法人  
 神奈川県栽培漁業協会  
 専務理事 今井利為

### マダイの栽培漁業

#### はじめに

マダイと言えば、恵比寿様が鯛と釣竿を抱えて満面の笑みを浮かべている光景が目につきます。また、大相撲の優勝力士が後援会の人々に囲まれて真鯛の尻尾を持って持ち上げている写真が報道



#### マダイは魚の王様

日本人は、おめでたい時の「めでたい」にあやかってマダイを好んで贈る慣わしがあります。赤くて、骨格がしっかりして、平らな魚は、日本人の慶事に対する喜びを表すには相応しい魚と言えます。

マダイは刺身、焼き魚、煮魚などの日本料理として、万能の素材です。このマダイにあやかっ

て付けられた名が何と多いかお分かりだと思いませんか。

マダイは、北海道以南から東シナ海の水深三十から二百メートルの岩礁域、砂礫の底層に生息します。

魚屋の店先では時々、チダイをマダイとして販売している光景を眼にします。マダイとチダイの違いは、尾の先に黒い縁取りがあるのがマダイ、ないのがチダイと分けることができます。マダイの呼び名は、大きによって変わります。大きによって変わります。大きによって変わります。

#### マダイ栽培漁業の必要性

マダイは昭和三十五年には、全国で二万四千トンの漁獲があり、現在の一・五倍ものマダイが漁獲されていました。

ところが、日本の高度経済成長期に沿岸の藻場・干潟などの浅海域が埋め立てられて、マダイの幼稚仔時代に生活する場が喪失してしまいました。その結果、漁獲量は急激に減少したのです。

マダイをはじめとする高価格魚類の減少は沿岸漁業の経営にとって打撃となってきました。

資源を維持・培養するために禁漁区、禁漁期、漁獲体長制限などの資源管理方策を取り入れることが必要です。(つづく)

マダイは、おめでたい時の「めでたい」にあやかってマダイを好んで贈る慣わしがあります。赤くて、骨格がしっかりして、平らな魚は、日本人の慶事に対する喜びを表すには相応しい魚と言えます。

マダイは刺身、焼き魚、煮魚などの日本料理として、万能の素材です。このマダイにあやかっ

て付けられた名が何と多いかお分かりだと思いませんか。

マダイは、北海道以南から東シナ海の水深三十から二百メートルの岩礁域、砂礫の底層に生息します。

魚屋の店先では時々、チダイをマダイとして販売している光景を眼にします。マダイとチダイの違いは、尾の先に黒い縁取りがあるのがマダイ、ないのがチダイと分けることができます。マダイの呼び名は、大きによって変わります。大きによって変わります。大きによって変わります。

神奈川下漁港めぐり・・・シリーズ②

# 「小田原漁港」

## 県西地域水産物の流通拠点

小田原漁港は相模湾の西部に位置し、相模湾や伊豆近海の好漁場に恵まれ、昔から定置網漁業を主体に、沿岸漁業が盛んに行われてきました。そして、背後に箱根、西に湯河原、熱海から伊豆半

島といった観光地を控え、水産物の流通拠点として、また、災害時の緊急物資の受け入れ港、漁船などの避難拠点としての役割を果たしてきました。その小田原漁港の整備は昭和二十六年に始まり、平成六年からは第九次漁港整備長期計画がスタートし、新港の西側に定置網漁業などの漁獲物を畜養する水面が整備されました。そしてその岸壁に荷捌き施設が建てられ、漁獲物を水揚げし、保管・出荷する役割を果た

しています。さらに、完成したこの荷捌き施設に隣接した場所に「小田原漁港水産加工処理施設」の建設が始まりました。来年二月末の完成予定です。同施設が稼働すると、これまで、定置網などで獲れても未利用に近かった水産資源の有効活用を目指し、一次加工を行うこととなります。そしてその西側に、都市住民との交流拠点を整備することも計画されています。

また、小田原漁港「本港」の南側には「小田原魚市場」が開設されており、年間一万五千トンを超す水産物を取り扱い、西湘、湘南地域や近隣の観光地に新鮮な魚介類を供給する「台所」としての役割を果たしています。



小田原漁港(本港)



地域の台所「小田原魚市場」



完成した畜養魚の荷捌き施設

## JICA 研修生を受け入れ



協会を訪問する研修生

JICA(国際協力機構)の「漁業コミュニティ開発計画コース」の研修生、十ヶ国、十六名が裁

培漁業の研修のため、当協会を訪問しました。昨年、十一月にはアルジェリア、カメルーン、コートジボアール、モロッコ、モリタニア、今年三月にはセネガル、ベナン、トーゴ、コンゴ共和国、ギニアのアフリカにあるフランス語圏の政府、地方政府の水産行政の中堅幹部や中核的漁業者の人たちです。研修生は二ヶ月間に日本各地の水産研究機関、漁業協同組合、加工施設を見学・研修をしました。彼らは、母国の水産業の発展に役立つ情報を持ち帰って、実践に生かすよう期待しています。

## 藻場回復に取り組んだ城ヶ島漁協

### 農水大臣賞受賞を黒岩知事に報告

城ヶ島漁協(池田金太郎組合長)は五月十六日、神奈川県庁を訪れ、黒岩祐治神奈川県知事に会い、三月に開催された第二十二回全国青年・女性漁業

者交流大会で、同漁協が発表した「城ヶ島における藻場保全活動」が農林水産大臣賞を受賞したことを報告しました。知事を訪問して懇談したの池田組合長は、同大会で活動発表し、た石橋秀樹同漁協理事、そしてこの活動を支えた高梨瑞穂主任の三人です。滝口直之神奈川県水産課長らが付き添いました。冒頭、滝口課長は「大会では三十九のグループが発表し、城



受賞を黒岩知事に報告

が発表し、城ヶ島漁協の活動発表は、同漁協が発表した「城ヶ島における藻場保全活動」が農林水産大臣賞を受賞したことを報告しました。知事を訪問して懇談したの池田組合長は、同大会で活動発表し、た石橋秀樹同漁協理事、そしてこの活動を支えた高梨瑞穂主任の三人です。滝口直之神奈川県水産課長らが付き添いました。冒頭、滝口課長は「大会では三十九のグループが発表し、城

## 栽培漁業に寄付

# シマノ、棒面丸

## リビエラリゾートシーボニアからも



1位の鈴木さんから寄付(棒面丸)



キスマスターで寄付

「神奈川の海の水産資源を豊かにしてほしい」という思いを込め、今年も当協会は、わが国の釣り具メーカーの最大手・シマノ、三浦市・松輪で遊漁船業を営んでいる棒面丸、そして春、秋に釣り大会を開催しているリビエラリゾートシーボニアから寄付をしていただ

ケ島漁協の活動発表は県下で初めて農林水産大臣賞を受賞しました。近年、藻場は磯焼けが進み、その対策に積極的に取り組んだ成果です」と受賞を紹介しました。池田組合長が「神奈川県などの支援を受け、県水産課や研究機関の職員の指導で最高賞を受賞することができました」と感謝の言葉を述べると、黒岩知事は、「素晴らしいことですね」と、受賞をともに喜びました。



また小さいな、と思ったら……海へ戻してあげましょう。

きました。各社とも長い間、寄付を続けていただいております。

今年も三浦市松輪の鈴木功さんが二〇一六年十二月に六・九キログラムの大ダイを釣り上げ一位となりました。

当協会は、平成十三年度に「マダイ遊漁者協力金制度」をスタートしました。神奈川県下の海でマダイ釣りを楽しむ釣り人のためにマダイ資源を維持・増大させるため、種苗放流などを積極的に

表彰式に合わせて棒面丸から当協会に十万円を寄付していただきました。棒面丸は十年以上前からマダイ釣りイベントを実施し、釣人の参加費の一部を積み立てて当協会に寄付しています。

この制度の趣旨に賛同したシマノは、「マダイ釣りにイベントの開催など釣りに係る事業を展開している企業として支援したい」と寄付を開始しました。そしてこれまでに寄付の総額は二千万円近くに達しています。

リビエラリゾートシーボニアマリーナは五月二十一日、「キスマスター2017」を開催しました。六十八艇のヨット・モーターボートに分乗した参加者はキス釣りを楽しみ、参加費の一部を当協会に寄付してくれました。

### 棒面丸から

平成十八年から、同社は春に「キスマスター」、秋に「ハギマスター」を行った際、その都度、当協会に寄付していたため、その寄付の総額は約百五十万円に達しています。

### 編集後記

三浦市の城ヶ島漁協が今年三月に開催された第二十二回全国青年・女性漁業者交流大会で、神奈川県では初めて、最高位の「農林水産大臣賞」を受賞しました。アイゴという魚やガンガゼというウニの一種が海藻を食べ尽くす「食害」を防止する取り組みが高く評価されました。海藻が失われると「磯焼け」といわれる「はげ山」ならぬ「はげ磯」になってしまい、海藻を餌にするアワビやサザエなどは生息できません。また、稚魚の「揺りかご」といわれる藻場がなくなると、魚介類の産卵場所や幼魚が隠れる住処を失います。したがって、藻場再生は緊急の課題です。